１．経営成績・財政状態に関する分析

(1) 経営成績に関する分析

①当期の経営成績

全般的状況

当期の経済情勢は、米国では緩やかな回復が続いたものの、欧州では低迷が続き、アジアでも中国で景気の拡大テンポが減速するなど、世界経済は力強さを欠きました。一方国内経済は、円安による輸出改善や政府による各種政策の効果が下支えするなかで、景気は緩やかながらも回復基調をたどりました。

このような状況の下、当社グループは、当期を初年度とする三カ年の中期経営計画「Change & Challenge －更なる成長に向けて－」において、３つの基本方針「持続的成長を可能にする収益基盤の強化」「グローバルでのグループ力の最大化」「資源・エネルギー・地球環境問題への対応と貢献」を掲げ、構造的な事業環境の変化にもスピード感を持って対応すべく、各事業課題の解決に向け取り組んでまいりましたが、特に化学部門を取り巻く状況は厳しさが続き、いまだその成果が出るには至っていません。

この結果、当社グループの連結売上高は前期に比べ２４４億８千８百万円増の６，５０５億１千万円、連結営業利益は５５億４千９百万円減の２４４億１千３百万円、連結経常利益は９３億５千４百万円減の１８６億９千１百万円、連結当期純利益は４３億５千万８百万円増の１２６億２千３百万円となりました。

項　　目	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	連結当期純利益
当　　期	６，５０５億円	２４４億円	１８６億円	１２６億円
前　　期	６，２６０億円	２９９億円	２８０億円	８２億円
増 減 率	３．９％	△１８．５％	△３３．４％	５２．７％

また、当社単独では、売上高は前期に比べ１０億５千６百万円減の３，１０５億２千９百万円、営業利益は３７億２百万円減の１００億６千２百万円、経常利益は１２６億２千万円減の８９億９千８百万円、当期純利益は３７億３千５百万円減の６５億７千２百万円となりました。

セグメント別状況

セグメント別の概況は以下のとおりです。

化成品・樹脂セグメント

ナイロン原料のカプロラクタムは、中国での相次ぐ他社新設備稼働開始に伴う供給過剰により市況の低迷が続くとともに、設備トラブル等もあり出荷が大きく減少したため、損失が拡大しました。ポリブタジエン（合成ゴム）は前期並みとなり、ナイロン樹脂は主に食品包装フィルム用途が、工業薬品はアンモニア製品等が、それぞれ堅調に推移しました。

この結果、当セグメントの連結売上高は前期に比べ１１２億１千７百万円増の２，３０５億８千５百万円、連結営業利益は４２億７千７百万円減の８億１千１百万円となりました。

項　　目	連結売上高	連結営業利益
当　　期	２，３０５億円	８億円
前　　期	２，１９３億円	５０億円
増 減 率	５．１％	△８４．１％

機能品・ファインセグメント

リチウムイオン電池材料については、電解液・セパレーターともに出荷は前期並みとなりましたが、セパレーターは大幅な価格下落の影響を受けました。ファインケミカル製品は輸出環境が改善し、環境コーティング向け材料の出荷も伸長しました。分離膜・セラミックス・ポリイミドフィルムの出荷は増加傾向にあるものの、本格回復には至っていません。

この結果、当セグメントの連結売上高は前期に比べ２０億４千９百万円増の６３１億６千万円、連結営業損益は１６億９千７百万円減の４億６千１百万円の損失となりました。

項　　目	連結売上高	連結営業利益
当　　期	６３１億円	△４億円
前　　期	６１１億円	１２億円
増 減 率	３．４％	－

医薬セグメント

自社医薬品の抗血小板剤の原体販売数量は着実に伸長していますが、自社医薬品の抗アレルギー剤および特許期間が満了した血圧降下剤の原体並びに受託医薬品の原体・中間体の販売は、低調に推移しました。

この結果、当セグメントの連結売上高は前期に比べ１７億４千６百万円減の９７億６百万円、連結営業利益は１７億４千５百万円減の１６億７千８百万円となりました。

項　　目	連結売上高	連結営業利益
当　　期	９７億円	１６億円
前　　期	１１４億円	３４億円
増 減 率	△１５．２％	△５１．０％

建設資材セグメント

セメント・生コン及び建材製品の出荷は、復興需要の本格化に加え、公共投資や民間需要が堅調に推移したことにより、国内出荷は前期を上回り、輸出採算の改善も進みました。各種廃棄物の原燃料へのリサイクルも堅調でした。カルシア・マグネシア製品分野においても、東北向け土質改良材は堅調に推移し、鉄鋼向けも脱硫材・耐火物ともに前期より需要持ち直しの傾向が見られました。

この結果、当セグメントの連結売上高は前期に比べ１５１億４千９百万円増の２，２３５億１千３百万円、連結営業利益は４０億７百万円増の１５５億１百万円となりました。

項　　目	連結売上高	連結営業利益
当　　期	２，２３５億円	１５５億円
前　　期	２，０８３億円	１１４億円
増 減 率	７．３％	３４．９％

機械・金属成形セグメント

竪型ミルや運搬機等の産業機械は、出荷は前期を下回りましたが、円安により受注環境は回復しつつあります。自動車産業向けを中心とする成形機は、新機種の市場への浸透が進み、日系ユーザーの新興国・北米での新増設案件を中心に出荷が好調でした。機械サービスは堅調に推移し、また、製鋼品は受注環境が厳しい中、出荷は堅調でした。

この結果、当セグメントの連結売上高は前期に比べ４２億１百万円増の７５５億１千１百万円、連結営業利益は７億７千８百万円増の４４億６千６百万円となりました。

項　　目	連結売上高	連結営業利益
当　　期	７５５億円	４４億円
前　　期	７１３億円	３６億円
増 減 率	５．９％	２１．１％

エネルギー・環境セグメント

石炭事業は、販売炭、預り炭ともに数量が増加したものの、電力事業でＩＰＰ発電所の定期検査およびその後の設備トラブルにより売電量が大幅に減少し、当セグメントはこの影響を大きく受けました。

この結果、当セグメントの連結売上高は前期に比べ９６億９千６百万円減の５９０億７千３百万円、連結営業利益は３９億６千万円減の１９億９千９百万円となりました。

項　　目	連結売上高	連結営業利益
当　　期	５９０億円	１９億円
前　　期	６８７億円	５９億円
増 減 率	△１４．１％	△６６．５％

その他のセグメント

その他の連結売上高は前期に比べ３５億２千２百万円増の２８８億１千６百万円、連結営業利益は５千６百万円増の１０億９千３百万円となりました

項　　目	連結売上高	連結営業利益
当　　期	２８８億円	１０億円
前　　期	２５２億円	１０億円
増 減 率	１３．９％	５．４％

当期に実施した主な施策など

化成品・樹脂セグメント
◆宇部アンモニア工業(有)と工場運営業務受委託契約を締結しました。これに伴い、昨年１０月より、当社宇部藤曲工場としてアンモニアや各種原材料の製造および製造設備の保安等にあたっており、安定操業を通して、ラクタム・ナイロンチェーンの重要な原料であるアンモニアの製造コスト削減や一層の収益改善策を推進していきます。
◆炭酸ガスの有効利用と排出削減並びに液化炭酸の需要増に対応するため、昨年8月、宇部ケミカル工場(藤曲地区)に新しい液化炭酸製造設備を設置し、運転を開始しました。
◆千葉石油化学工場の合成ゴム製造設備増強工事（第２ステップ、年産１万６千トン）が本年３月に完工しました。
◆カプロラクタム事業全体の競争力強化のため、堺工場におけるカプロラクタムの生産を、本年３月末をもって停止しました。

機能品・ファインセグメント
◆車載用リチウムイオン二次電池向けなどでの需要増大に対応するため、昨年５月、堺工場で新たに機能膜（セパレーター）８期製造設備が営業運転を開始しました。
◆ヘリオフレッシュが「第５回ものづくり日本大賞」特別賞を昨年９月に受賞しました。
◆宇部日東化成㈱が昨年１０月、宇部エクシモ㈱に社名変更しました。

医薬セグメント
◆本年３月、第一三共㈱との共同開発により創製した抗血小板剤「プラスグレル（商品名：エフィエント）」が国内における製造販売承認を取得しました。

建設資材セグメント
◆昨年４月、セメント需要の増加に伴い原料となる石炭灰の輸送量を確保するため、宇部興産海運(株)の石炭灰運搬船「伸星丸」が就航しました。
◆既存コンクリートの補修・補強材料や耐震補強事業を強化するため、ＵＢＥリニューアル工業会が昨年７月に発足しました。
◆昨年８月、宇部マテリアルズ株式会社を株式交換により完全子会社化しました。今後石灰石チェーンにおける収益力の強化や、機能性無機材料の事業化推進等、事業戦略の一元化と意思決定のスピードアップを図ることでシナジーを最大化し、当社グループの企業価値の向上を追求します。
◆昨年１１月、シンガポールでセメント受入サイロ事業を開始しました。
◆ノンブレース型耐震補強工法「デザインUフレーム工法」で本年１月、建築技術性能証明を取得しました。

機械・金属成形セグメント
◆昨年１０月、宇部興産機械㈱と同社子会社である宇部テクノエンジ㈱が合併しました。これにより製造・販売・サービスの一体化を進め、「世界へ、いいものを提供しよう」をスローガンに、多様化するニーズへの対応力を強化してまいります。
◆宇部興産機械(株)は、東洋機械金属(株)との業務提携により高機能の小型ダイカストマシンを昨年１０月に完成させました。さらに本年３月、これらの成果を踏まえ、提携を一層強化するため、両社の間でダイカストマシンの開発・生産・販売に関する資本業務提携契約を締結しました。

エネルギー・環境セグメント
◆ＩＰＰ発電設備については、昨年５月、定期検査終了後の稼動再開過程で不具合が発生し、現在復旧作業中です。再稼動は、来年１月を予定しています。

②次期の見通し

今後の経済情勢につきましては、国内は景気の回復基調が続くことが期待されるものの、中国をはじめとする新興国経済の先行きなど世界景気の下振れリスクや消費税率引上げに伴う影響が懸念されるなか、事業によって状況は異なるものの、当社グループ全体としては引き続き厳しい環境が続くことが見込まれます。こうした情勢を踏まえ、次期の業績見通しについては、平成２６年４月から平成２７年３月までの為替水準を１ドル＝１０５円、国産ナフサ１ｋｌ＝７１，３００円、豪州炭価格１トン＝１０，６７５円と想定し、次のとおり予想しております。

連結売上高は、機能品・ファインセグメントでの販売数量増による増収等により、 ６，７００億円と予想しております。連結営業利益は、化成品・樹脂セグメントの収益改善等により、当期を上回る３００億円と予想しております。連結経常利益は２４０億円、連結当期純利益は１３５億円とそれぞれ予想しております。

項　　目	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	連結当期純利益
平成27年3月期	６，７００億円	３００億円	２４０億円	１３５億円
平成26年3月期	６，５０５億円	２４４億円	１８６億円	１２６億円
増 減 率	３．０％	２２．９％	２８．４％	６．９％

セグメント別連結売上高

項　　目	化成品・樹脂	機能品・ファイン	医薬	建設資材	機械・金属成形	エネルギー・環境	その他	セグメント間の内部売上高消去
平成27年3月期	２，２７０億円	７３０億円	１００億円	２，２８０億円	７７０億円	６４０億円	３１０億円	△４００億円
平成26年3月期	２，３０５億円	６３１億円	９７億円	２，２３５億円	７５５億円	５９０億円	２８８億円	△３９８億円
増 減 率	△１．６％	１５．６％	３．０％	２．０％	２．０％	８．３％	７．６％	―

セグメント別連結営業利益

項　　目	化成品・樹脂	機能品・ファイン	医薬	建設資材	機械・金属成形	エネルギー・環境	その他	調整額（注）
平成27年3月期	４５億円	１０億円	１７億円	１５５億円	４５億円	２５億円	１０億円	△７億円
平成26年3月期	８億円	△４億円	１６億円	１５５億円	４４億円	１９億円	１０億円	△６億円
増 減 率	４５４．９％	―	１．３％	△０．０％	０．８％	２５．１％	△８．５％	―

（注）調整額は、各セグメントに配分していない全社費用（各セグメントに帰属しない一般管理費等）及びセグメント間取引消去額の合計額です。